

「第14回文化庁メディア芸術祭」期待と興奮の12日間。 国立新美術館と東京ミッドタウンで2月2日から開催。

文化庁、国立新美術館、CG-ARTS 協会は「第14回文化庁メディア芸術祭」を2011年2月2日から13日まで、国立新美術館と東京ミッドタウン（東京・六本木）にて開催します。

受賞作品展では、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの4部門に応募があった2,645作品から選ばれた受賞作品と審査委員会推薦作品約170点を展示。さまざまなジャンルの今を代表する作品が一堂に集まり、メディアの多様化やテクノロジーの進化、社会環境の変化とともに変わりつづけるメディア芸術を体感していただけます。

また、メディア芸術祭は映像フェスティバルの側面もあります。各部門で選ばれたアニメーション、ミュージックビデオ、VFX、CM、アート映像に加えて、海外のアニメーションフェスティバルの招待作品の上映をおこないます。

今回は、シンポジウムやプレゼンテーションをさらに充実させ、アーティストやクリエイターらが自ら受賞作品や活動について紹介する機会を増やしています。これらのイベントは、USTREAMによる動画配信「メディア芸術祭 UST」でも紹介し、全国どこからでもメディア芸術祭を体験していただけます。プログラムの詳細は Web サイトにて随時公開します。

※昨年度の来場者は 63,348 名。

※2月1日（火）の15時からプレス向け内覧会を予定しております。詳細は別紙をご覧ください。

メディア芸術祭3つの見どころ

1. アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガなど、"今"を代表する作品が一堂に集まります。
2. 海外から応募の受賞作や海外のフェスティバルディレクター等のプレゼンテーションを通して世界動向を知ることができます。
3. シンポジウムやプレゼンテーションなどを通して、作家やクリエイターたちに会うことができます。

平成22年度[第14回]文化庁メディア芸術祭 開催概要

会期	2011年2月2日（水）～2月13日（日） ※8日（火）休館 10:00～18:00 金曜は20:00（入館は閉館の30分前）
会場	国立新美術館（東京・六本木） ※サテライト会場：東京ミッドタウン
観覧料	無料
URL	http://plaza.bunka.go.jp/
主催	文化庁メディア芸術祭実行委員会 （文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会）
お問合せ	CG-ARTS 協会内「文化庁メディア芸術祭事務局」 フリーダイヤル 0120-454-536 http://plaza.bunka.go.jp/q/



© Cod.Act

この件に関する問合せ先

CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉
東京都中央区京橋 1-11-2 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 <http://www.cgarts.or.jp/contact/>

A1. 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

世界 49 ヶ国・地域の 2,645 作品から選ばれたアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの優秀作品約 170 点を紹介。部門ごとに受賞作品と審査委員会推薦作品を展示します。メディアやテクノロジーの進化とともに変わりつづけるメディア芸術の今を体感できる展覧会です。

■アート部門

アート部門は作品の約 4 割が海外からの応募であり、受賞者も海外のアーティストが多い部門です。今回は「音と動きの関係性」や「社会的プロジェクトとしての作品」「既存メディアを活用した表現」などをテーマにした作品が選ばれています。

58 作品（インタラクティブアート、インスタレーション、映像、静止画（デジタルフォトを含む）、Web など）



© Peter Tilg

■エンターテインメント部門

テクノロジーの進化や社会環境の変化は、エンターテインメント作品にも大きな変革をもたらしています。ジャンルの枠組みを乗り越え、おもしろさだけでなく魅力と可能性を持った作品に出会うことができます。

48 作品（ゲーム、遊具、映像（VFX、CM、MV など）、キャラクター、Web など）



©KDDI 株式会社

■アニメーション部門

個人制作の短編アニメーションから、劇場公開やテレビシリーズの長編アニメーションにいたる多様なジャンルのハイレベルなアニメーション作品を上映。絵コンテや設定資料など制作過程を知ることができる貴重な資料も展示します。

31 作品（劇場公開、TV、OVA、短編アニメーションなど）



© 四畳半主義者の会

■マンガ部門

今回選ばれた受賞作品は、歴史、自然、SF など題材はさまざまですが、いずれも人間の深層を丁寧に描いた作品ばかりです。作者直筆の精緻な原画を展示するほか、作品を読むことのできる閲覧コーナーもあります。

33 作品（ストーリーマンガ、コママンガ、Web マンガ、自主制作マンガなど）

■功労賞

功労賞に選ばれたマンガ編集者の栗原良幸氏が手がけたマンガ雑誌や作品を通じて、栗原氏が編集者として育ててきたマンガの世界を紹介します。



© 岩明均 / 講談社

A2. 学生 CG コンテスト 受賞作品展（協賛事業）

メディアアート分野の登竜門として定着している「学生 CG コンテスト」。静止画、動画、インタラクティブの 3 部門に応募があった 1,221 作品から選ばれた優秀作品を展示。学生ならではの発想と情熱でつくりあげられた作品群をご覧ください。http://www.cgarts.or.jp/scg/2010/

[主催：CG-ARTS 協会]

A3. 先端技術ショーケース '11（協賛事業）

一般来場者表現の場として、メディア芸術祭の受賞作品を見たまなさんの感想を視覚化するというアート・コミュニケーションの空間をつくります。

[主催：文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構・国立新美術館]



昨年の展示風景

B1. 文化庁メディア芸術祭 映像作品上映

メディア芸術祭は映像フェスティバルとしての側面もあります。劇場公開アニメーションや短編アニメーション、アート映像、ミュージックビデオ、VFX、CM、など多彩なジャンルの映像作品を上映します。上映は美術館3階講堂に加えて、サテライト会場である東京ミッドタウンのカンファレンスルーム（ミッドタウンタワー4階）にて行われます。

- アート部門 映像作品 (11 作品)
- エンターテインメント部門 映像作品 (13 作品)
- アニメーション部門 短編&劇場公開作品 (19 作品)
- 海外フェスティバル招聘作品



©2010 森絵都／「カラフル」製作委員会

B2. Media Arts in the World [上映とプレゼンテーション]

海外のメディア芸術関連のフェスティバルやミュージアムの活動を紹介します。フェスティバル・ディレクターやキュレーターなどによるプレゼンテーションや作品の上映を予定しています。

■アヌシー国際アニメーション映画祭（フランス）＊

1960年にカンヌ国際映画祭から独立して設立された、伝統あるアニメーションフェスティバル。

<http://www.annecy.org/>

■オタワ国際アニメーション映画祭（カナダ）＊

1976年から開催されている北米最大級のアニメーションフェスティバル。

<http://ottawa.awn.com/>

■ザグレブ国際アニメーション映画祭（クロアチア）＊

国際アニメーション映画協会の公認を受けた、ヨーロッパで2番目に古いアニメーションフェスティバル。

<http://www.animafest.hr/>

■SICAF（韓国）＊

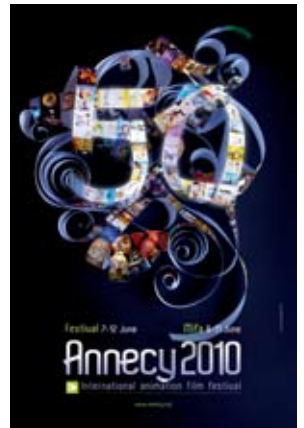
1995年から開催されている韓国最大のアニメーションとマンガの祭典。

<http://www.sicaf.or.kr/>

■JAFF（エストニア）

エストニアの首都タリンで毎年開催されている日本のアニメーションをフォーカスしたフェスティバル。

<http://www.kino.ee/index.php?page=1495&>



※「＊」は美術館講堂および東京ミッドタウンのカンファレンスルームでの上映を予定しているフェスティバルです。随時スケジュールを掲載予定。

C1. 受賞者シンポジウム

第14回文化庁メディア芸術祭の受賞者と審査委員による受賞者シンポジウム。受賞作品が創り出された背景やコンセプト、制作秘話などを紹介するとともに、今年度のメディア芸術祭を部門ごとに総括します。また今年は複数部門の受賞者と審査委員による部門を超えたクロスセッションシンポジウムを開催します。

[アート部門受賞者シンポジウム①] (同時通訳)

日時：2月4日(金) 18:00-19:30

出演：Michel DÉCOSTERD / André DÉCOSTERD (大賞『Cycloid-E』)
クワクボリョウタ (優秀賞『10番目の感傷(点・線・面)』)
Peter TILG (奨励賞『Succubus』)
四方 幸子 (アート部門主査/メディアアート・キュレーター)



[アート部門受賞者シンポジウム②] (同時通訳)

日時：2月5日(土) 16:00-17:30

出演：James POWDERLY (優秀賞『The EyeWriter』)
The Men In Grey (優秀賞『The Men In Grey』)
関口 敦仁 (アート部門審査委員/情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 学長) ほか

[エンターテインメント部門受賞者シンポジウム①]

日時：2月5日(土) 13:00-14:30

出演：千房 けん輔 (大賞『IS Parade』)
鈴田 健 (優秀賞『無限回廊 光と影の箱』)
伊藤 ガビン (エンターテインメント部門審査委員/編集者)



昨年のシンポジウムの様子

[エンターテインメント部門受賞者シンポジウム②]

日時：2月12日(土) 13:00-14:30

出演：関 和亮 (優秀賞『アルクアラウンド/サカナクション』)
YKBX (優秀賞『夏を待っていました/amazarashi』)
寺井 弘典 (エンターテインメント部門審査委員/クリエイティブディレクター)

[アニメーション部門受賞者シンポジウム①]

日時：2月13日(日) 13:00-14:30

出演：和田 淳 (優秀賞『わからないブタ』)
一瀬 皓コ (デコボーカル) (審査委員会推薦作品『TWO TEA TWO』)
古川 タク (アニメーション部門主査/アニメーション作家)

[アニメーション部門受賞者シンポジウム②]

日時：2月13日(日) 16:00-17:30

出演：湯浅 政明 (大賞『四畳半神話大系』)
片渕 須直 (優秀賞『マイマイ新子と千年の魔法』)
原 恵一 (優秀賞『カラフル』)
水川 竜介 (アニメーション部門審査委員/アニメ評論家) ほか

[マンガ部門受賞者シンポジウム]

日時：2月6日(日) 16:00-17:30

出演：みなもと 太郎 (優秀賞『風雲児たち 幕末編』)
永井 豪 (マンガ部門主査/マンガ家)
細萱 敦 (マンガ部門審査委員/東京工芸大学准教授)

[功労賞受賞者シンポジウム]

日時：2月6日（日） 13:00-14:30

出演：栗原 良幸（功労賞／マンガ編集者）

永井 豪（マンガ部門主査／マンガ家）

かわぐちかいじ（マンガ部門審査委員／マンガ家）

[部門クロスセッションシンポジウム「ネット時代における映像の多様性：表現と配信について」]

日時：2月12日（土） 16:00-17:30

出演：田村 友一郎（アート部門優秀賞『NIGHT LESS』）

石田 祐康（アニメーション部門優秀賞『フミコの告白』）

内山 光司（エンターテインメント部門審査委員／クリエイティブディレクター）

伊藤 有希（アニメーション部門審査委員／アニメーションディレクター） ほか

C2. テーマシンポジウム

世界各国のアートフェスティバルのディレクターが、各フェスティバルの目的や役割、社会的意義について論じあうシンポジウム。各フェスティバルが重視している作品の傾向や、近年の特徴と動向の変化について、そしてアーティストの国際的活躍の場としてのフェスティバルの在り方などについて考えます。

[世界のアニメーションフェスティバルから発信される表現の魅力]

日時：2月3日（木） 16:00-17:30

出演：Vjera MATKOVIC（ザグレブ国際アニメーション映画祭プログラムディレクター、クロアチア）

古川 タク（アニメーション部門主査／アニメーション作家） ほか

[アートフェスティバルの新たな役割と意義：2010年代を迎えて]

日時：2月4日（金） 15:00-16:30

出演：Agnieszka Kubika-Dzieduszycka（WROキュレーター、ポーランド）

四方 幸子（アート部門主査／メディアアート・キュレーター） ほか



※シンポジウムタイトル、スケジュールは現在計画中のものです。予告なく変更になることもありますので、あらかじめご了承ください。

※講堂上映およびシンポジウムプログラムは、当日の朝 10:00 から講堂受付（3F）にて先着順で整理券を配布します。

D. プレゼンテーション

展示会場内・東京ミッドタウン

前回から始まったプレゼンテーション。今回は、受賞作品展示会場内に「ソーシャル・メディア・ラウンジ」を設置し、各部門の受賞者や海外フェスティバルのディレクターたちによるプレゼンテーションや、メディア芸術祭の国内・海外での展開や活動についてのレポートなどを連日発表する予定です。またこれらプレゼンテーションの様子を USTREAM で配信も予定しています。

D1. 受賞者プレゼンテーション

各部門の受賞者によるプレゼンテーション。受賞作品制作にまつわるエピソードや、今後の活動などについて、作者自身から聞くことができる貴重な機会です。

- アート部門受賞者プレゼンテーション
- エンターテインメント部門受賞者プレゼンテーション
- アニメーション部門受賞者プレゼンテーション
- マンガ部門受賞者プレゼンテーション



D2. フェスティバルプレゼンテーション

メディア芸術分野を含む、アートやテクノロジー、デジタルカルチャーに焦点を当てているさまざまな海外フェスティバルのディレクターによるプレゼンテーション。

- Artur Veeber (JAFF ディレクター)
- Vjera MATKOVIC (ザグレブ国際アニメーション映画祭プログラムディレクター)
- Agnieszka Kubika-Dzieduszycka(WRO キュレーター)

D3. テーマプレゼンテーション

メディア芸術とその歴史、アートとエンターテインメント、テクノロジーなどさまざまなテーマで審査委員ほかにより語られるプレゼンテーション。

D4. レポート

メディア芸術祭の海外・国内における活動と展開についてのプレゼンテーション。

- メディア芸術祭イスタンブール展レポート
- メディア芸術祭京都展&岡山展レポート
- メディア芸術祭の海外展開レポート
- メディア芸術祭の国内展開レポート

E. メディア芸術祭 UST

全国のどこからでもメディア芸術祭の雰囲気味わっていただけるように、動画配信サービス USTREAM を用いた番組「メディア芸術祭 UST」を提供します。贈呈式やシンポジウム、プレゼンテーションなど、12 日間の会期を通してメディア芸術祭のイベントを紹介します。また、番組制作の一部は「伝える」をテーマにしたワークショップとして実施。『motion dive2』で第 3 回文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞された平野友康氏を講師に迎え、学生と共同で番組をつくっていきます。

内覧会・贈呈式のご案内

- 内覧会 2月1日(火) 16:00～19:00 国立新美術館 企画展示室 2E
- 贈呈式 2月1日(火) 18:00～19:00 東京ミッドタウン ミッドタウンホール B

※内覧会・贈呈式は、受賞者や審査委員をはじめ、ご招待者やプレスの方のみのご案内です。一般の方は入場できませんので、ご了承ください。

プレス向け内覧会および説明会

報道関係者の皆様に上記内覧会の前に作品をご覧くださいと時間を設けております。解説を交えた展示会場の簡単なツアーを予定しています。参加希望の方は別紙申込書にてお申し込みください。

- 日時：2月1日(火) 15:00～16:00
- 場所：国立新美術館 企画展示室 2E
- 受付：企画展示室 2E 入り口受付にて 14:45～

●当日取材をご希望される方は、こちらの申込書にてお願いいたします。

申込先 FAX：03-3564-5238

文化庁メディア芸術祭事務局 行

第14回 文化庁メディア芸術祭 取材申込書

取材を希望されるものにチェックしてください。

プレス向け内覧会（受付開始 14：45～） 2月1日（火）15：00～16：00

内覧会 2月1日（火）16：00～19：00

贈呈式（受付開始 17：00～） 2月1日（火）18：00～19：00

イベント []
[]

※ご取材になりたいシンポジウム・プレゼンテーション名をお書き下さい。

その他 []

※会期中の展覧会への取材につきましては、会期時間内の制限はございませんが、事前にご一報いただきますようお願い申し上げます。

■ 御社名

■ 媒体名

■ ご芳名

■ ご同伴者名（合計 名）

■ 持ち込み機材 スチールカメラ [] 台 ビデオカメラ [] 台

その他 []

■ ご住所

■ TEL

■ FAX

■ 携帯

■ E-Mail
